

学徒動員と学べない不満をぶつけた日々



竹立 威三雄(たけだち いさお)さん(84) 昭和5(1930)年 大阪市浪速区生まれ。卸問屋の五人兄妹の長男として生まれる。中学校へ進学したが学徒勤労働員のため軍需工場へ。浪速区の自宅は昭和20(1945)年3月13日の第1次大阪大空襲で全焼した。この空襲により浪速区は区域の98%が焼け、昭和20年10月の人口は戦前と比べ4%となるなど、最も壊滅的な被害を受けた。終戦後に復学したが中退し、両親とともに厳しい家計を支えた。

大阪市立第七商業学校に通い始めた1学期の終わりから終戦までの約2年間、学徒勤労働員のため上新庄の大阪金属へ通い働きました。今のダイキンです。勤務時間は朝の定時から夕方3時まで。1週間に1回は学校へ行く日もあったと思います。今は名前と場所が変わって、西淀川区の淀川商業高校になっているかな。大国町から地下鉄に乗って梅田へ出て、阪急の北野線という路面電車

で天神橋筋六丁目に行って、そこから旧京阪に乗って上新庄まで通いました。同じ工場には、私らのほかに私立の浪華商業学校、成蹊女学校、薫英女学校の4校から学生が集められました。私の持ち場は飛行機のラジエーター用部品の加工で、これはエンジンを冷やすための部品ですね。銅製の部品を塩酸で磨きました。塩酸は有毒ですから、体への負担が大きくて、終戦の2か月ほど前に胸を病んでしまい、病院へ行ったら肺浸潤と診断されました。当時は結核の手前と言われていて、危険ですが薬も何もない時代です。せめて栄養を取るために、医者からは毎日卵2個とハウレンソウとリンゴを食べるように言われました。戦時中なのでいずれも貴重品でしたが、3月の空襲で焼け残った自宅の倉庫に純粹の石鹼が残っていて、物々交換をして両親が手に入れてくれました。難波は商人のまちでしたから、調味料は足りないなりに揃っていました。

胸を患ったあとは、学校の事務を手伝っていたのですが、このとき校庭で空襲に遭ったことが強烈に記憶に残っています。校長先生と数人の生徒と事務員で、ひとつの防空壕に入ったときのことです。六角形の焼夷弾が防空壕の天井を突き破って落ちてきて、私の隣に座っていた学生の頭を直撃しました。板の上に盛ってあった土と鉄兜を突き破って、頭を抜けてイスの板も突き抜けて地面に刺さりました。即死でした。燃えなかったのが不幸中の幸いでした。それ以上はよう語りません。

たまに学校に行っても、学校らしさはなくて、学校の校庭にはイモ畑があって、防空壕が転々としているだけ。学生時代という印象はほとんどありません。修学旅行ってあるでしょう。小学校の修学旅行は上六から伊勢神宮へ日帰りで行きましたが、私にとっての修学旅行はそれだけです。

お国のために働くわけですから、報酬もありません。市電の回数券をもらったのと、昼ごはんが出ました。でも当時は満腹を感じた覚えはありません。周りを見ても、ふっくらしている者はいませんでした。ごはんは真っ白なものではなくて、麦なんか混ざっていたように思います。少なくともパンは出ませんでした。だから、たまに出るおやつは嬉しかったですね。どんなものでも口にできるものがあれば感謝して食べました。

夕陽の決闘

戦時体制下でしたので、少尉クラスの軍事教官が1人ついていました。工場ではずるいことをすると叱られますし、一般の工員もおいでやないですか。学

生を下に見ているようなこともあって、いろいろあったんです。苦しい思いもしました。気持ちがすさんでいましたし、中学1年2年だと血気盛んといいますか、いきり立っていたというか。別の学校同士の生徒が工場で出会うと、それぞれ校風が違うので、何かあるんですよ。終業後には淀川で決闘もしました。今のいじめみたいな陰湿なものではなく、もっと正々堂々としたもので、ようやくやったことを憶えています。浪華商業学校といたら、野球の名門校やないですか。学校で男女が区別されていましてから、工場で男女が出会うのが珍しくてね。ケンカは女子校の生徒がいた影響もありましたかね。

戦争中は反発するようなことはありませんでした。当たり前という感覚です。工場で働くことにも疑問を感じませんでした。これが教育なんですね。中学校では漢文を習っていましたが、終戦後学校が始まって習ったのは英語でした。先生は何を教えたらいいいのかという感じで、迷いはったと思います。野球でも終戦を境に「ストライク」や「ボール」ですから。

大阪大空襲で自宅が全焼

私の人生は、家に焼夷弾が落ちてから変わってしまいました。バケツの水やホウキで消えるような火ではなかったので、防空頭巾や着ているものを水で濡らして、合図をして高島屋（現在の南海なんば駅）を目指して走りました。オヤジは43歳、私が13でした。着いたら濡らしたものはみんな乾いていましたが、その後の記憶はありません。気が付いたら朝になっていて、周りにあった家が一夜にして何もないんです。大きなつむじ風が吹いて、怖かったですよ。今年の3月13日は近くのお寺へお参りに行きました。浪速区では2000人くらい亡くなっていますから、大阪の3月13日は忘れてはなりませんよとずっと言い続けています。

浪速区は98%が焼けてしまって、私の家には田舎がなかったので、我孫子の浪速高校前に住んでいた親戚を頼って一家7人が1か月くらい世話になりました。そこから阿倍野の昭和町へ一家で引っ越しました。全部焼かれて何もないでしょう。私が長男で中3、一番下は乳飲み子で1歳くらい。両親にしたら非常に苦しかったと思うんです。収入がまったくなくて無一文になりました。あの当時は政府の補助も何もないやないですか。中学3年でしたが、学校に行っても生徒が授業をボイコットする同盟休校で勉強はできないし、家に帰っても生活が厳しいので自分から「学校を辞める」と言うたんです。下に4人おります

し、おじいさんもいて、家族の暮らしを両親がすべて支えるわけです。貯えもそんなにありませんし、インフレですからあつという間に消えてしまいます。

学校を辞めると言ったら、校長先生が「辞めんといてください」と言いに来まで来てくれましたし、両親も止めてくれましたが、家の商売と言っても売物がないじゃないですか。焼け跡の電信柱を掘りに行きました。地中に埋まった、燃え残った部分を掘りだして、乾かして割って薪にして売りました。でも地域へ帰らせていただいたおかげでみなさんにお世話になって、認めてもらいました。私は小学校しか出ていないけれども、社会勉強はたくさんさせていただきました。よかったなあと思います。学力もないのに地域の会長でも引いていただいた。地域の人たちは、オヤジの生きざまを見てくれていたんだと思います。

オヤジも私も意地になって、下の子たちには「いけるところまで行け」と言って、みな大学まで行きました。商売を継ぐために大蔵商業へ行っていた昭和11年生まれの弟は、いい友達に出会って、一緒に進学することになりました。神戸大学が受かったけど関学にも通りよったんです。でも、ちょっと贅沢な学校やないですか。入学金を払うために、オヤジから相談がありましてね、家の電話を売りました。あの当時は結構いい値で売れましたからね。焼け出された人はだいたい苦労しています。その分だけ強いですよ。少々のことではくじけません。

在学の証は戦災体験

浪速区では、小学校にあった名簿も記録もなくなっていました。唯一、入学した記録だけはありますが、卒業証書はありません。先日、保護司の叙勲が決まったとき、学歴を聞かれたのですが当時の記録がありません。淀川商業に行っても、私の代だけ名簿が残ってないんです。戦死した友達や焼けた家のことを話して、やっと「本当なんですね」と分かってもらえました。今はこの地域ではみな木津中学に行きますが、当時はバラバラでした。だから焼けてしまってますます分からなくなって、同窓会も開けません。お寺も焼けていますから、記録がありません。それだけ空襲の被害が大きかったということです。

元町小学校の石川校長先生が昭和58年に編集した「戦前史」に、昭和12年当時の私が写っています。これが幼少の頃の唯一の写真です。私は今の鉄眼寺のところにあった幼稚園の卒園でした。1クラス35人くらいで4クラスありま

した。小学校は浪速スポーツセンターのところにあって、卒業当時の全校生徒は1,000人規模でした。それだけの密集地帯だったんです。

子どもたちへのメッセージ

私は中学1年から学徒勤労動員で働いたために、教育を受けられないまま中退したわけですから、教育環境としては最悪でした。今はいい環境で勉強ができますから、教育を受ける機会があれば貪欲に受けてください。我々が勤労奉仕に行ったのも、教育のなせる業です。戦争というのはそういうもんやでということをお伝えたいですね。平和だということは意識しなければ分かりません。今とは違う時代があったということを知ってほしいですね。

こういうことはもっと語り継いでいかなければならないと思っています。焼け残ったところには語り継ぐ人がいるのですが、浪速区では資料をはじめ、あまりにも多くのものが焼けてしまいましたから。